

発刊にあたって

松商学園短期大学は、開学（昭和28年4月）以来、当地の高等教育の一翼を担って地域社会に貢献してきたが、同時に地域のシンクタンクとして、地域の産業界・商業界・行政等からのさまざまな要望に応じて調査・研究活動の面でも積極的な貢献を果たしてきた。

先ず、短期大学開学と同時に「信州産業調査研究所」（通称「信産研」）が併設され、スタートと共に活発な活動が開始された。その活動の成果は、「信州産業調査研究所報告」として公表された。「報告書」は、第1輯が、昭和31年6月に出され、昭和46年3月第27輯の刊行をもって終わっている。

「信産研」は、平成4年4月、経営情報学科の開設と共に「松商学園短期大学総合研究所」（通称「総合研究所」）へと改組された。

因みに、「信産研」の研究所規定では、「本研究所は信州の産業経済に関する調査研究」を目的とするとあり、一方「総合研究所」の規定には、「地域社会への貢献を目指し、総合的分野について調査・研究」を目的とすると記されている。ここに研究所改組のモチベーションが見て取れる。嘗て、経済成長を自己目的とすることができた時代は、専ら産業経済の課題を重点的テーマとすることで足りたが、いまや複雑化・多様化の時代であり、産業経済の他に社会経営・福祉・環境等広範で総合的な課題への対応が求められているのである。本学の研究所の改組は、まさに時代の要請に応えるものであったといえる。

これまで「総合研究所」が行った事業の主たるものは次のようなものである。

I. 調査研究活動

- ①松本市社会福祉協議会業務のあり方に関する調査
- ②介護保険に関する調査・研究
- ③松本市地区福祉ひろばの成果など調査研究
- ④町会福祉に関する調査・研究

Ⅱ. 地域への提言活動

①産業廃棄物のリサイクル活用有機肥料製造事業への提言②観光信州の食と～問題の所在と一つの改善策③農村集落活性化への提言～世代間交流学習等

Ⅲ. 地域歴史的資料の収集と保存

①長野県の戦後産業史②長野県の製糸業③松本市本郷地区の歴史等

その他、地域づくりをテーマとした海外からの研修の受け入れ、生活記録による世代間交流学習事業、さらには、地域と連携した学習活動である松本市の福祉と地域づくり研究会等々まことに多様であり総合的である。

このような総合研究所の活動成果は、これまで個々の報告書やレポートとして公表されてきたが、このままでは折角の成果が散逸する虞もあり、これからは研究所として紀要を刊行し、活動成果を記録すると共に広く社会に公表することになった。

来年（平成14年）4月に開学される「松本大学」も、より充実した地域のシンクタンクとしての貢献が期待されており、総合研究所も「松本大学」に発展的に継承されることになっている。

研究所紀要「地域総合研究」を創刊するにあたって、これまで必ずしも恵まれているとは言い難い研究条件の中で、創意工夫を旨とし、献身貢献の精神を以て研究所の活動を担ってこられた研究員のみなさんのご尽力に心から敬意と感謝を申し上げたい。

平成13年7月

松商学園短期大学総合研究所

所長 中野和朗